

平成 29 年度サービス第三者評価（公益社団法人 全国有料老人ホーム協会）

法人名	株式会社 生活科学運営			ホーム名	ライフ&シニアハウス井草		ID	2920	
評価機関			株式会社 ケアシステムズ			評価日		2018 年 1 月 30 日	
スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価	
1.1.1	B	A	2.3.3	A	A	6.1.2	A	A	
1.1.2	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A	
1.1.3	A	A	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A	
1.1.4	A	A	2.3.6	A	A	6.2.2	A	A	
1.2.1	A	A	2.3.7	B	B	6.2.3	A	A	
1.2.2	A	A	2.3.8	非該当	非該当	6.2.4	A	A	
1.2.3	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A	
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A	
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A	
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A	
1.4.1	B	A	2.4.2	A	A	6.2.9	B	B	
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	B	B	
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	A	A	
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	C	C	
1.4.5	B	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A	
1.4.6	B	A	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A	
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A	
1.4.8	A	A	3.1.3	B	B	7.3.1	A	A	
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A	
1.5.2	B	A	3.1.5	A	A	7.3.3	A	A	
1.5.3	A	A	3.1.6	C	C	7.3.4	A	A	
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A	
2.1.2	A	A	4.1.1	B	B	7.4.2	A	A	
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A	
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	B	A	
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A	
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A	
2.2.5	A	A	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A	
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A	
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A	
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	B	B	
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	A	B	
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	A	
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A	
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A	
2.3.2	B	B	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A	

評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケルNo.	所 見
2-3-3	「にやりほっと」というポジティブな視点からの入居者の行動や表情を10年くらい前から記録している。入居者の笑顔を記録（メモ）し、法人のGA（グループアクション）で発表して全施設に拡大した。NHK おはよう日本や、本にもなっている。「にやりほっと」から入居者が自分ができることに着目して役割を持って参加してもらうことで入居者のモチベーションの向上、またスタッフのモチベーション向上につながっている。さらに「にやりほっと」をケアプランにつなげられるようにしている。例えば、車いすから立ち上がるのを危ないではなく、安全を考慮した上で有効な場面を想定して積極的に入居者が活動できる場面を考えている。にやりほっと探検隊（4名）があり、全社メールで事例を共有している。職員の気づきを育てるツールとしても機能している。
1-4-3	長谷工とグループになってから、オンラインで職員が直接本部と年1回仕事の意向や希望、異動希望も含めてアンケート形式で実施している。職員の要望は本部で調整している。また社内公募や、海外視察などに本人希望、スキルを鑑み実施されている。施設を通さず、職員個人と人事の間で進められる。人事評価・人材育成マニュアルに基づいてオリエンテーションを実施、新入職員には入社時にオリエンテーションを行なっている。また管理者向けオリエンテーションを実施し適切な運用を行える体制を整えている。
1-5-1	職員に対して倫理規定や、個人情報保護について年1回勉強会を実施している。またケーススタディに基づいてテスト形式で理解を確認している。テストの内容はリーダクラスが、実際のケースを元に問題を作成して、内容を上長がチェックしている。テストを受ける一般職員だけでなく、リーダクラスが問題作成に当たることで、現場に即した理解が進む取り組みである。
4-1-4	自立の利用者、特定施設入居者生活介護の利用者、それぞれの生活を支援するため、訪問診療やクリーニング、眼鏡、補聴器の出張販売、理美容ほか、さまざまな外部サービスの紹介を行っている。特に財産管理や相続、成年後見などの相談も多く、税理士や弁護士等に繋ぐ支援も行っている。
7-2-1	全室個室であり、自立支援の利用者は朝、ボードにマグネットを貼ることで動静を確認できるようにしている。マグネットの動きがなければ、フロアの管理者が訪室する。特定施設入居者生活介護のサービスを受けている利用者も同様で、食事注文等のマグネットを自分でボードに貼るようにしている。マグネットの掲示状況で随時に担当職員が訪室し、状況確認する。これ以外にも行事やレクリエーションの際は積極的に声かけし、閉じこもりにならないよう気を配っている。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケルNo.	所 見
2-3-4	年に一回、入居者にライフとハウスそれぞれで「食事アンケート」を実施している。法人全体で共通の指標で分析がなされ、ハウス独自の設問も入れて実施しているが、現在食事以外の部分を入居者に訊く仕組みは入居半年後の入居者の満足を入居相談員が満足度を聞き取り調査が行われているが、それ以降の入居者の満足等の調査を実施していくか、生活に関する調査を定期的に行うことも期待される。
2-1-2	井草での年度方針、ライフ部門（生活）、シニア部門（介護）ごとの策定は行われている。また、食事については年1回「食事アンケート」を実施し、入居者の意向を把握しているのだが、食事についての年間の事業計画については、生活・介護部門の計画に準じてということになっている。入居者の重要な要素である食事についても独立した計画を策定し、業務委託先と連携して目標を定めて実現しを進めていただきたい。
3-1-6	自立の利用者は、個別の生活を尊重し、共用部分は湯茶の用意等に留まっている。特定施設入居者生活介護の利用者も、ほとんどの活動は食堂兼デイルームで行われており、目的別の共用空間などは特に作られていない。機能訓練も看護師が日常生活の場で行っており、訓練に特化したスペースは無かった。空間を分けることで利用者の生活にメリハリをつけることも必要と思われる。
4-1-1	特定の相談担当者はおらず、各フロアのグループリーダーが相談に乗っている。家族からの相談・意見・苦情について、書式が明確とは言い難く、見直しが求められる。質問によっては、施設長に聞かないとわからない等の発言も聞かれており、相談対応者のスキルアップも促される。